

# 平成 22 年度 教育委員会評価

## 平成 22 年度重点施策別評価

### 1. 特別支援教育の推進と生徒指導の充実

#### ①目的・意図

子どもたちの教育を受ける権利を保障し、一人一人の状況に合った教育を実施する。

#### ②目標達成度(取組事業)

##### ○特別支援

- ・教職員、保護者への支援、研修、相談の実施
- ・関係機関：教育センター、養護学校、児童相談所、医療機関、広域連携協議会、県
- ・雲南市特別支援連携協議会の設置：相談支援チームの開催、巡回相談の実施
- ・学校の対応：校内委員会の設置、特別支援コーディネーターの校内分掌での位置づけ

##### ○生徒指導

- ・学校訪問の実施
- ・教職員、保護者への支援、研修、相談の実施

#### ③今後の課題

専門的な知識と経験を持った職員の配置、研修や、個々の事例に客観的に対応していくため、チームを組んで対応していく体制を整備することが重要である。

### 2. 給食センター調理業務等の民間委託について

#### ①目的・意図

平成 19 年に策定した「雲南市事務事業外部委託の推進に関する指針」に基づき、調理業務等の民間委託を目指す。

#### ②目標達成度(取組事業)

大東、木次、三刀屋の学校給食調理業務について、民間委託することとし、「学校給食調理業務等委託検討委員会」「委託業者選定委員会」を設置し(株)給食雲南に委託することを決定。

#### ③今後の課題

業務委託について、「評価委員会」を設置し、業務の点検、評価を行い、より良い給食の提供に努める必要がある。

### 3. 適正規模適正配置実施計画の策定

#### ①目的・意図

平成 21 年度策定の「雲南市立学校適正規模適正配置基本計画」に基づく実施計画の策定

#### ②目標達成度(取組事業)

適正規模適正配置については、計画前期に位置づけられた幼稚園、小学校について、統合をめざす学校の保護者・地区市民の皆様との協議について、大東町阿用地区、久野地区、塩田地区、木次町温泉地区、三刀屋町飯石地区、中野地区、吉田町民谷地区において協議を行った。

阿用地区では振興会による預かり保育が実施され、久野幼稚園は休園し大東幼稚園への通園を決定。塩田小学校は閉校とし大東小学校へ通学することを決定。中野幼稚園は閉園し三刀屋幼稚園への通園を決定。中野小学校は平成 25 年 3 月で閉校し三刀屋小学校へ通学することを決定。民谷分校は平成 24 年 3 月で閉校し、吉田小学校へ通学することを決定。

実施計画の策定については、地元の皆様との協議によって統合等が進むことを踏まえ、協議が整った学校について具体化していくこととした。

### ③今後の課題

基本計画における前期での検討・協議することとしている学校について、引き続き地区市民、保護者の皆様との協議を進める。

## 4. 学校施設の耐震化

### ①目的・意図

学校施設の耐震化、安全で安心な学習環境の確保が学校施設整備の最重要課題として位置づけ早期完了を図る。

### ②目標達成度(取組事業)

- ・危険改築：大東小学校校舎 三刀屋中学校校舎
- ・耐震改修：西小学校校舎、海潮小学校、塩田小学校、加茂小学校の屋内運動場
- ・事業の実施により、IS 値 0.3 未満(大地震で倒壊の恐れ)の施設の耐震補強は解消。耐震化率は 84%となった。

### ③今後の課題

耐震改修が必要な施設 11 棟の実施計画に基づく早期完了

## 5. 太陽光発電施設の整備

### ①目的・意図

太陽光発電を身近な環境学習の教材として活用し、地球温暖化防止や再生可能エネルギーの重要性を学習する。

### ②目標達成度(取組事業)

市内全小中学校 28 校について整備を完了した。(総発電量 708kwh、年間発電量 62 万 kwh)、CO2 削減量は 200t、14%を見込んでおり、雲南市文教施設 CO2 削減目標 2%大幅にクリアできる。

### ③今後の課題

学校における環境学習、環境教育授業での活用、指導者の養成発電システムのメンテナンス、発電データの検証

## 6. 学校図書館と市立図書館の充実

### ①目的・意図

読書をする時間の拡大と図書整備。さらに教職員の資質の向上を図る。

大東図書館の蔵書データをデータベース化し、且つ3図書館の蔵書データを 1 つのサーバーで一元管理することによって、図書資源の有効利用を図る。

### ②目標達成度(取組事業)

- ・学校司書配置事業により、掛合小学校へ学校司書を配置、その他は司書ボランティアを配置。その結果、貸出し冊数の増加が図られた。
- ・学校図書館パワーアップ事業の実施により学校図書館のリニューアルが図られ、利用図書の増加につながった。
- ・大東図書館の図書検索、貸出等図書館業務が電算化になったことより、利用者サービスの向上や業務に係る負荷の軽減が図られ、来館者数や貸出冊数が増加した。また、3 館の蔵書データの一元化により、蔵書検索時間が短縮された。

### ③今後の課題

- ・学校司書配置については、人材の育成を図らなければならない。
- ・市立図書館について蔵書データの更なる有効活用を検討するとともに、貸出・流通の運用について整理を行い、相互貸借の連携体制の強化を図る。

## 7. 「夢」発見プログラムの推進とふるさと教育の充実

### ①目的・意図

ふるさと教育の取組をさらに充実させ、子どもたちの「生きる力」を育むための小中一貫で行う具体的な教育プログラム（キャリア教育推進プログラム）の推進を図る。

### ②目標達成度(取組事業)

- ・小学校： 他校との交流学习を進めるとともに市内再発見探訪をおこなう。
- ・中学校： 他校との交流学习を進めるとともに市内再発見探訪をおこなう。  
講師を招聘し、キャリア教育に関する講演会等の実施。
- ・小中学校全般では、各学校で教育課程に位置づけて、総合的な学習の時間を中心に各学年に応じた体験学習等を実施した。
- ・中学3年生を対象とした職場体験「夢」発見ウィークは、5月から事業所説明会等準備を進め、全7中学校の3年生386人が9月28日から30日の3日間市内180事業所の協力を得て実施した。さらに、同じく中学3年生の希望者を対象に「幸雲南塾 in さんべ」を三瓶青少年交流の家で、115人の参加を得て1泊2日の日程で開催した。

「夢」発見ウィークについては、定着化してきている。「幸雲南塾 in さんべ」については、参加者に意識付けを図ることができた。

### ③今後の課題

「夢」発見ウィークについては、幅広い職種の事業所に受け入れてもらい、多くの事業所へ生徒が喜んで参加できるようすることが必要。移動手段の検討も必要。

## 8. 幼児教育の充実

### ①目的・意図

就学前教育を担う保育所、幼稚園において幼児期の教育と子育て支援環境の充実を図る。

### ②目標達成度(取組事業)

#### ・預かり保育の実施

木次幼稚園と三刀屋幼稚園において5歳児の預かり保育(平日・長期休業中)を試行した。試行にあたっては「預かり保育実施検討委員会」を設置し教育委員会と実施園の職員が合同で検証してきた。

#### ・「キャリア教育推進プログラム『夢』発見プログラム幼児期版」の策定

市内の全ての保育所と幼稚園が同一のプログラムを指針として、小学校教育につながる教育を行うため、健康福祉部と教育委員会が合同で「キャリア教育推進プログラム『夢』発見プログラム幼児期版」を策定した。

#### ・定例園長会の開催

### ③今後の課題

「キャリア教育推進プログラム『夢』発見プログラム幼児期版」は、平成23年度を試行の年とし、研修を通して趣旨の徹底を行い、各保育所幼稚園において指導計画に位置付けた取組みを進める。

また、小中学校版『夢』発見プログラムとのつながりを検討する必要がある。

## 9. 社会教育の充実

### ①目的・意図

地域、家庭の教育力を高める社会教育の推進として、学校、PTA と連携・協力して家庭教育支援、青少年教育支援などを行う。

公民館から交流センターに移行し、総合センターにおける地域づくり担当職員と連携をとりながら、生涯学習の充実と社会教育推進を図る。

### ②目標達成度(取組事業)

社会教育コーディネーター養成講座プログラムをもとに、講座を 14 回開催し、コーディネーターの資質向上に努めた。また、通学合宿、放課後子ども教室などへの支援を行った。

### ③今後の課題

「不登校・引きこもり対応」「健康づくりの向上」「ふるさと教育の推進」を重点課題として、小学校段階から家庭教育の支援、子どもにかかる社会教育の推進に取り組む必要がある。

また、生涯学習と社会教育について混同される場面があり、理解を得る必要がある。

## 10. 文化財の保護、保存、活用

### ①目的・意図

雲南市の歴史を伝える貴重な文化財を後世に遺すため適正な保護・保存と文化財の活用を図る。

### ②目標達成度(取組事業)

- ・県指定遺跡等の環境整備、「菅谷たたら山内」応急修繕。
- ・加茂岩倉遺跡維持管理。
- ・旧大原郡家等範囲確認調査、田部家古文書調査。
- ・市民大学講座開催、大原郡家を考えるシンポジウム開催。

### ③今後の課題

「菅谷たたら山内」保存修理事業と活用の円滑な推進。

加茂岩倉遺跡周辺整備の早期完了と活用の円滑化。

旧大原郡家等範囲確認調査の継続と遺構の保護・保存。

## 11. 雲南市教育フェスタの充実

### ①目的・意図

学校、家庭、地域、行政のよりよい「協働」のあり方について情報を交換し学び合う場とする。

### ②目標達成度(取組事業)

雲南市 PTA 連合会などとともに、11 月 27 日～28 日に三刀屋交流センターを主会場として「雲南市教育フェスタ 2010」を開催。

テーマを「学校を支える・地域を創る」～学校支援とコミュニティーづくりを考える～として基調講演、事例発表、パネルディスカッションを開催。また、市内小中学校で取り組んだ「ふるさと教育」「キャリア教育」「学校支援ボランティアの活用」などの実践事例のパネル展も開催した。

参加者は 200 人で、学校を核とした地域づくりという新たな方向性の確認の場となった。

### ③今後の課題

引き続き、教育課題についての情報交換、学びあう場として様々な皆様に参加していただきながら開催していくことが肝要である。

## 12. 新学習指導要領への移行期間の充実

### ①目的・意図

新学習指導要領の完全実施が、小学校については平成 23 年度よりスタートする。

円滑な移行のため、指導書、備品の整備を行う。

②目標達成度(取組事業)

小学校の教科書改訂が行われ 23 年度以降使用する教科書の選定がなされた。これにより、教師用指導書及び準拠教材の整備を図る。

③今後の課題

平成 24 年度よりスタートする中学校の指導書、教材の整備に関し準備を進めなければならない。

13. 教育支援コーディネーターの配置

①目的・意図

雲南市に誇りを持ち、夢を持って、たくましく生きる子ども達を地域挙げて育てていくために中学校へ市職員を配置する。

②目標達成度(取組事業)

- ・雲南市教育フェスタ
- ・不登校対策

上記以外に、本年度が最終年度となる学校支援地域本部事業、「夢」発見プログラムに関する事業、特別支援に関する関係者の連絡調整等に係る業務など、多方面に渡る学校の要望、教育委員会の指示に基づく活動等を展開した。雲南市が進める教委施策の具現化に努め、ほぼ目標を達成できた。

③今後の課題

教育支援コーディネーターの学校配置は、5年目を迎え、さらなる市役所内の他部局との連携をしなければならない。

社会教育コーディネーター配置後の教育支援コーディネーターのあり方として、「学校教育への特化」が1つの道として示されている。それぞれの受け持つ部分を整理、調整する必要がある。

14. 平和と人権・同和問題の正しい理解と認識の促進

①目的・意図

平和と人権・同和問題に対して正しい知識と理解を深め、自分の問題として捉え、差別のない思いやりあふれた明るい社会の実現を目指す。

②目標達成度(取組事業)

- ・学校、家庭、地域、事業所等あらゆる場での教育・啓発活動を実施した。  
(教職員、議会議員、交流センター・自主組織、行政職員、定例公開講座等)
- ・人権問題に関する市民意識調査を実施した。

③今後の課題

研修会等を継続して実施するとともに、学習機会や講師の情報を提供し、一人でも多くの方に人権問題について考えていただく場を提供しなければならない。